



ウェルビーイングを高める学習環境の構築

共通教育科

森村 繁晴 教授

【研究分野】
【キーワード】
【URL】

教育社会学、生涯学習論
学校教育、成人学習者、幸福度、生活満足度、ストレス、学習成果の可視化
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=319mori>



研究概要

- 2015年のOECD「生徒の学習到達度調査」（PISA調査）において、学習の背景情報として新たに「生徒のウェルビーイング（健やかさ・幸福度）」の視点が導入されました。さらに、コロナ禍による教育環境の激変もあり、「学び」と「ウェルビーイング」の関係性に対して、国際的に注目度が高まりつつあります。
- 「学習」は学校のみならず、家庭や地域社会など、広い意味での「社会」の中で行われています。学習者本人の状況に加え、学習者を支える保護者や教育者、さらには地域社会の取組みについても、ウェルビーイングの視点を持つことが大切です。
- 多様性と流動性が増しつつある現代社会の状況を踏まえ、子どもから大人まで、人々がより幸福に暮らせる「学び」のありかたについて、多角的に研究しています。

研究紹介

1. 自然体験の豊富な小学生は、自己肯定感が高くなる傾向を確認しました。
2. 小学生の保護者は、我が子が通う公立小学校の教育内容を高く評価する場合、居住満足度も高くなる傾向を確認しました。
3. PTA活動による保護者の不満要因として、活動の強制性などの影響を確認しました。
4. 就職氷河期世代の男性無業者は、他世代よりも学習意欲などが低くなる傾向を確認しました。
5. 大学での専攻分野の違いによって、社会人学生の生活満足度や幸福度に差が生じる傾向を確認しました。

講座テーマ紹介

「学び」と「ウェルビーイング」に関連して教育学の立場から、以下のような講座が可能です。

- PISA調査に導入された「ウェルビーイング」視点の意義について
- 多様な背景による、さまざまな教育格差について
- 学習成果の可視化とウェルビーイングについて
- 人生100年時代の学びと幸福度について



アピールポイントなど

- 私自身は語学教材やキャリア情報などを手掛ける編集プロダクション経営を経て、教育系の研究者に転身しました。子どもたち、および市民一人ひとりの「学習機会を通じたウェルビーイング向上」の実現に向けて、今後の「学び」のありかたを提言します。
- 数量的エビデンスに基づく知見に加え、当事者それぞれの持つストーリーの視点も大切にしています。